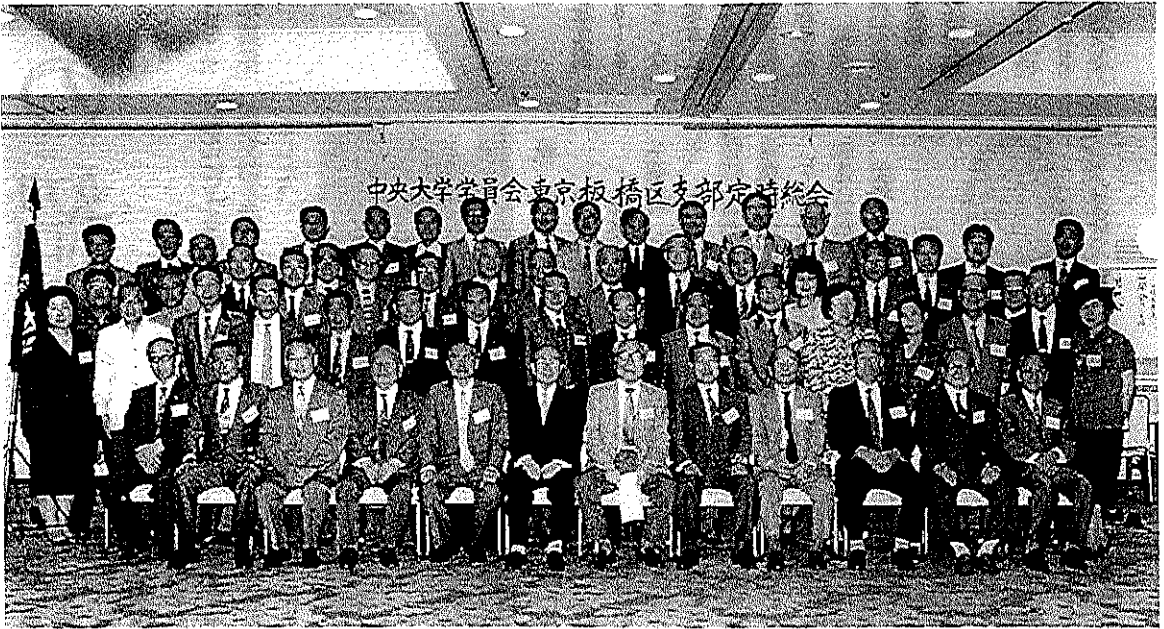




橋板門白

編集発行 中央大学学会
東京板橋区支部
〒174 板橋区常盤台1-49-9
TEL 3960-7488

1991.3.28 第3号



定時総会平成2年6月

創立三年に思うこと

支部長 田永嘉彦

支部創立以来三年が過ぎ、会員も二四〇名以上になり、諸行事の参加数も常に八〇名以上あり、会合を通じて皆様の気心も知れてきたことと思われます。

会員の年令も年配者と若い人とは相当ひらいていますが、少人数でも結構ですので趣味を通じて、囲碁会、ゴルフ会等の同好会的サークル活動を発展させて行きたいものです。会員の皆様の積極的な参加をお願いします。

サークル活動については少年時代のことか思い出されます。群馬県前橋中学校一年生に入学して未だ日の浅い六月頃、校内春の剣道大会が開催された。場所は学校内の武道場であった。

当時、(昭和六年頃)は柔道、剣道は正式な学科でありどちらかに入らなければならなかった。

私は小学校四年生の時から有志ではじまった剣道の手ほどきをうけていたので剣道を選んだ。なにしろ入学して未だ二ヶ月位のため、ほかの同級生はほとんど道具を身につける事もできず大会どころではなかった。私たち経験者数は二年生の末席に名をつらねて大会出場の機会にめぐまれた。二年生は一ケ年の経験はあるが試合は前年秋の大会のみである。私は小学生の頃数回他校との試合を経験しているもので要領は心得ていた。

試合は問題なく私の勝利となり、多分八人程勝ち抜いたのである。それ以来、この大会のこともあり上級生にいいめられることもなく五年間のクラブ活動を通じ、楽しい中学生生活をすごすことができた。

サークルだより

ゴルフ会

平成二年四月十一日(水)に第一回ゴルフ会を寄居カントリークラブ(埼玉)で行なった。

初めてのことで当初二組で参加者を募ったが五名の申込みとなった。止むなく栗原三郎さんが辞退して下さり、一組で実施した。

参加者は清水治男、森英正、松原成光、武内崇泰の四氏であった。一組のためコンペティションの形を採らず懇親ゴルフとなった。初めての顔合わせであったが和気相会のうちに、陽春のゴルフを楽しんだ。

次回は早めに案内をして、せめて三組ぐらいで行ないたいと思っております。

囲碁会

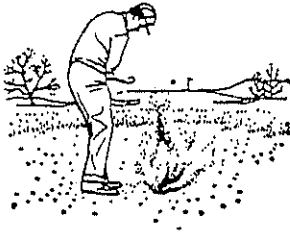
囲碁会は平成二年七月二十九日(日)に第一回を開いてから、回を重ね平成三年二月二十四日(日)で五回目を行了った。

それぞれ日曜日の午後一時から午後九時まで、その間都合の良い時間

に集り、段級差も碁会所様式を採り合理的で楽しい会となっている。

現在の愛好の士は二十五名で、清水治男氏のお世話で、区の施設を借りて行なっている。日曜日の午後からの一日を千円ぐらいの会費で楽しいひと時を過ごし、懇親を深めている。

なお、この会から、清水、細田、松山、武内、水野の五氏が、平成二年十二月一日(土)に行なわれた、中央大学学員会主催の全国OB囲碁大会に出場し、それぞれに分かれたクラスで優勝、入賞、健闘と活躍し、板橋区支部に囲碁会ありをアピールした。



常盤台公園でお花見

平成二年度の事業として、支部のお花見を四月一日(日)夕六時から常盤台公園で開きました。

日時、場所、天候など難しい面も、運よく二十九名の参加者を得、中板橋勢の元気なところをみせ上々の首尾でした。

当日、会費千円のほか皆様からのご寄贈も過分に頂きました。

中井川知行 一万円(欠席)
廣田 盛春 二千元

依田敬一郎 清酒一本
田永 嘉彦 お新香など肴

濱 巖 清酒二本
牧 吉雄 清酒一本と鱈六十尾

色川 昭雄 清酒二本
小日向孝介 清酒一本

古宮麻岡 和子 清酒一本と中燗二本
武内 崇泰 するめなど肴

女性二人の家庭的なサーブスも有難いことでした。

学員会主催の観桜会

平成二年四月七日の観桜会には点当支部より五名が参加しました。

平成三年度の観桜会は四月六日(土)に行なわれます。参加ご希望の方は



常盤台公園にて

当日正午までに中央大学駿河台記念館へ。多摩往復の無料バスが出ます。

湯河原に秋を訪ねる

宴の席順にもひと工夫



恒例の行事となった当支部の秋の旅行会を十一月十六日(土)十七日(日)の一泊二日で行った。回を重ねるごとに参加者も増え、今回は二十九名となった。会員の一割以上が参加したことになり、盛会を喜びあった。現地集合であったが、参加者のうち二十名は新宿発午後一時の小田急ロマンスカーで小田原に向かった。

小田急ロマンスカーではビールを売っていないことを知っている一行は、乗車前に買い込む。水割りも割高なことを承知しており、ウイスキーを持ち込み、アイスティーで割って飲むチャッカリ組もいて、車中は和やかな雰囲気包まれた。

小田原で下車した一行は、小田原城に向かう。折しも菊祭が行われており、目を楽しませてくれた。

城内では長年にわたり、小田原城主を続けた大久保一族の記念展が行われており、いつもより見応えのある感があった。見学を終えた一行は小田原駅から湯河原駅に向かった。目指すは今宵の宿である日本新聞協会の湯河原寮、定刻の四時に到着した。

既に到着している者もあり、早々に温泉につかり、小田原城の階段の上り降りて疲れた足を癒した。

定刻の六時より宴会に入った。席

順は抽選で決められていた。それは、到着した時に引いた番号で既に決まっていた部屋割り番号と同じで、座れば同室の者が並ぶよう一連番号になっていた。

支部長は正面近くの席を引くよう配慮？するが、他はみな平等でクジ任せとなる。この方法が顔見知り同士がかたまらず、年齢差を超えて懇親を深められることに役立っている。

宴会は例によって盛り上がり、カラオケ大会となる。そして翌朝…

朝食後有志がまとまり、近くの名所、旧跡を訪ねた。鉱物学者の櫻井欽一博士が「湯河原沸石」を発見した不動滝の滝壺を関心をもち見物したりした。

昭和五年にこの滝壺から、将棋の駒の形をした無色透明の結晶体を採取した。東大の施設を借りて石の確定を行い、「湯河原沸石」と名付けた。沸石とはゼオライトと称し、含水量が多く、加熱すれば連続的に脱水、沸騰して膨れる特性がある。冷却すれば元に戻り、資源的には吸着剤として利用されている。

こうしたアカデミックな話題もあり、湯河原の秋をゆっくりに堪能して帰途についた。

(武内崇泰)